

日本民俗学会 第72回年会 愛知

第2回サーキュラー

先般、日本民俗学会第72回年会の案内をさしあげ、多数の皆様の参加申し込みと発表申し込みをいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、第72回年会実行委員会では、年会の通常開催をめざして準備を進めてまいりましたが、昨今の**新型コロナウイルス感染症の状況をかんがみ、オンライン開催とすることを決定いたしました**。通常開催を念頭にご準備をされていた方々に対しては、たいへん申し訳なく存じます。さまざまなリスク回避のため、苦渋の判断となりました。なにとぞご寛恕くださいますようお願いいたします。

今年会につきましては、日本民俗学会会員の方は、第1回サーキュラーで参加申し込みをされた方はもちろん、**どなたでも参加費無料でご参加いただけます**（あらためての参加の申し込みや取消しは不要です）。大幅な開催方法変更となりますので、第2回サーキュラーも全会員の皆様にお送りし、**研究発表については、追加申し込みと発表取消とを承ります**。要旨集のご購入や発表要旨のご提出などを含めて、期日までのお手続きを何卒よろしくお願い申し上げます。なにぶんオンライン開催は初めての試みであり、不備なども多々あろうかと存じますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

日本民俗学会第72回年会実行委員会

主 催 一般社団法人日本民俗学会
協 力 愛知大学
期 日 2020年10月3日（土）～11日（日）
会 場 オンライン開催（年会ウェブサイト）

【年会事務局】

〒466-8666愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2
中京大学文学部歴史文学科小早川道子研究室気付
日本民俗学会第72回年会実行委員会事務局

*学内での郵便事故に備え、

上記宛名は省略せずにお書きください。

TEL:052-835-7111（代表）

E-mail:minzokugaku72@gmail.com

連絡はなるべくE-mailでお願いします。

<今後の日程>

8月10日（月）

- ・研究発表の追加申し込みと発表取消の期限
- ・広告募集期限

8月25日（火）

- ・発表要旨提出期限
- ・広告原稿期限

8月31日（月）

- ・発表動画URL・発表資料提出期限
- ・発表要旨集購入申し込み期限
- ・書籍案内申し込み期限

※ 従来、参加者の方にお送りしていた第3回サーキュラーは、今回は発送いたしません。

1 年会プログラム

※ 総会と評議員会については、期日など未定です。

●10月3日（土）

9:00～12:30 シンポジウム 1

「食と環境―食文化による里海の保全と実践活動」

13:30～17:00 シンポジウム 2

「伊勢・三河湾をめぐる民俗」（仮題）

※ 両シンポジウムとも遠隔会議システム（Zoom）を利用したオンライン開催（ライブ配信）となります。第1回サーキュラーでは「公開シンポジウム」としていましたが、オンライン開催となったことに伴い、日本民俗学会会員限定のシンポジウムとなります。

●10月4日（日）

9:00～ 研究発表動画公開

※ 発表者が発表動画をYoutube上にアップロードし、コメント欄を利用して質疑応答を行うオンデマンド形式で実施します。動画へのリンクと発表資料のダウンロードページは、年会ウェブサイト内に設置します。

※ 研究発表の質疑については次の通り受け付けます。

10月7日（水） 24:00 質問書き込み〆切

10月9日（金） 24:00 回答書き込み〆切

10月11日（日） 24:00 動画公開終了

※ シンポジウム、研究発表とも年会ウェブサイトから会員専用のページに進み（その際、4ページに記載されているパスワードが必要です）、そこからご参加ください。

※ 開始・終了時刻は予定です。研究発表のタイトル一覧は事前に年会ウェブで発表します。

2 参加費 無 料

3 研究発表について

- ・オンデマンド配信での発表をもって年会での発表とみなします。動画作成が難しい場合は、詳細な発表資料を作成し、8月31日までに年会事務局（minzokugaku72@gmail.com）にメール添付でお送りください。
- ・すでに発表を申し込んだが取り消したい場合、もしくは新たに発表を希望される場合は、年会ウェブサイトのオンラインフォームか、同封の返信用葉書にてお申し出ください（なるべくオンラインフォームをご利用ください）。なお、追加申し込みにつきましては、今回、年会の形式が急遽オンライン開催となったことに伴う特別の措置であることをご理解ください。
- ・発表内容は日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、発表をお断りします。
- ・発表は日本語でお願いします。

（1）発表形式

＜一般発表＞

- ・発表者は15分以内の発表動画を作成し、各自YouTubeにアップロード後、URLを8月31日までに年会事務局（minzokugaku72@gmail.com）にメールでお知らせください。メールの件名は「発表動画（発表者氏名）」としてください。年会ウェブサイトではリンク集を作成します。

動画作成方法などは、7ページの「動画作成マニュアル」をご覧ください（年会ウェブサイトにも掲載）。

＜グループ発表＞

- ・統一テーマのもとで4名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち1人をグループ発表の代表者としてください。
- ・グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」をおこなっていただきます。オンラインもしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- ・グループ発表の時間枠は1人15分以内×人数分（代表者含む）＋代表者総括15分以内（「はじめに」「まとめ」など2分割可能）となります。人数分の発表動画を作成し、YouTubeへアップロード後、URLを8月31日までに年会事務局（minzokugaku72@gmail.com）にメールでお知らせください。メールの件名は「発表動画（発表者氏名）」としてください。
- ・一般発表、グループ発表ともに、動画コンテンツの他に資料（レジュメ）がある場合は、8月31日までに年会事務局（minzokugaku72@gmail.com）にメール添付でお送りください。その際、メールの件名は「発表資料（発表者氏名）」としてください。

（2）発表要旨の提出

- ・一般発表、グループ発表に申し込まれた方は全員、「研究発表要旨」を年会実行委員会事務局要旨受付担当へメールで提出してください。「研究発表要旨」は年会ウェブサイトからひな形のファイルをダウンロードし、下記の執筆要領を参照して作成してください。
- ・期限までに発表要旨を提出されなかった場合、発表辞退として扱われます。

＜発表要旨執筆要領＞

【ファイル形式】Microsoft Wordファイル(.docx)

【ページ設定】A4縦長1頁、横書き、43字×38行、余白（上下左右）25mm

【フォント】和文/英数字：MS明朝（印刷時は視認性のよい游明朝体に変更されます）

【フォントサイズ】発表題目（副題も）：12pt（太字）、氏名・所属等・本文：10.5pt

【発表題目・氏名・所属等】ページ最上部中央に発表題目を12ptのフォントサイズ、太字で記載してください。

副題がある場合は、そのすぐ下に同じく12ptの太字で記載してください。発表題目の次の行を1行あけてから、発表題目の下中央に10.5ptで氏名を記載し（姓と名の間を1字あけてください）、その右側にかっこ書きで所属等を記載してください（所属等の記載にあたっては、サーキュラー最終頁の「所属の表記について」をご参照ください）。

【要旨本文】要旨本文は発表者氏名より1行あけて書き始めてください。フォントサイズは10.5ptです。図表の挿入は可能ですが、写真の挿入はお控えください。なお、出来上がりは白黒印刷になります。

※ 誤字などの単純なミスについては、発表者に断ることなく、実行委員会で訂正しますので、予めご了承ください。

※ 執筆要領の設定に従っていない場合、実行委員会で体裁を調整します。その結果、文字数が1頁を超える時は、そこで機械的に切ります。文字数の超過には十分ご注意ください。

＜送付について＞

【送付先アドレス】ayakokasuya@gmail.com（年会実行委員会事務局要旨受付担当）

※ 研究発表要旨を受け付ける専用アドレスです。年会実行委員会事務局のアドレスとは異なりますので、ご注意ください。

【メール件名】発表要旨（発表者氏名）

【ファイル名】要旨（発表者氏名）

【送付期限】 8月31日（月）24時必着

※ グループ発表の代表者は、個別の「研究発表要旨」とは別に、グループ発表全体についての要旨「（グループ発表要旨）」を期日までにご提出ください。

【メール件名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

【ファイル名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

4 発表要旨集

- ・研究発表の視聴にあたっては、発表要旨集をご活用ください。
- ・要旨集の購入を希望される方は、代金1,500円（送料込）を8月1日（土）から31日（月）の間に納入してください。同封の払込取扱票にてお申し込みください。年会開催までに発表要旨集をお送りいたします。

【口座(記号)番号】 00810-2-189779

【加入者名】 日本民俗学会第72回年会実行委員会

- ・発表要旨集の内容は、年会より前（9月）に年会ウェブサイト上でも公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

5 書籍紹介の申込み

- ・第72回年会ウェブサイトには書籍紹介ページを設けます。書籍紹介のウェブページのURLをご登録いただき、年会ウェブサイトからリンクする形となります。書籍紹介を希望される会員・研究会・出版社・団体は、下記の要領でお申し込みください。委託販売はお受けできません。

【申込み方法】

8月31日（月）までに年会実行委員会事務局（minzokugaku72@gmail.com）宛に書籍紹介のウェブページのURLをお送りください。その際、メールの件名は「書籍紹介希望（会員・研究会・出版社・団体名）」としてください。費用は無料です。

6 広告の募集

- ・発表要旨集への広告掲載を希望される方は、8月10日（月）までに年会実行委員会事務局要旨集担当（ayakokasuya@gmail.com）宛にメールで詳細をお問い合わせください（メールの件名は、「広告掲載の問い合わせ」としてください）。年会実行委員会から「広告掲載のお願い」の文書を受けとられた出版社・団体は、このお問い合わせは不要です。

日本民俗学会 第72回年会 愛知 参加用パスワード

※ 年会ウェブサイト（<https://www.nenkai72.fsjnet.jp/toppage>）でこのパスワードを入力し、会員専用ページに進んでシンポジウムと研究発表にご参加ください。

※ このパスワードは日本民俗学会会員限定のもので、会員以外に知らせることのないようお願いいたします。

シンポジウム1

「食と環境—魚食文化による里海の保全と実践活動」

主旨

日本の魚食文化は、古くは縄文時代にさかのぼることができる。日本には貝塚が多数みられ、漁業技術も発達していたと発掘成果から読み解くことができる。やがて仏教思想が伝わって肉食が禁止され、神饌は魚介類が中心となっていった。平安時代の『延喜式』の記録では、西日本を中心に多くの魚介類と魚介類の加工品が都に届けられ、近世には魚介類は贈答品にも使われ、『毛吹草』（1638年）には諸国名物の魚介類と魚介類の加工品が紹介されている。同書には諸国名物の農産物も紹介するが、京野菜の産地である山城国を除くと圧倒的に魚介類が多い。魚介類の加工品が多いのはひとえに肉より保存が容易であったことに起因し、その伝統は現代にも続いている。このように日本人にとって魚食文化は重要な役割を果たしてきたにもかかわらず、近年、魚食文化の評価があまり高いとはいえない。

一つには日本の魚食文化についての総合的な調査研究が少ない。話題になるのは漁業なら大間のマグロ、食なら回転寿司ぐらいである。その背景にあるのは魚食文化の調査が儀礼食に偏っていたことに他ならない。柳田国男編『海村生活の研究』（1939年）で取り上げられている内容は多岐にわたるが、食は儀礼食が少し登場するにすぎず、古老が伝える儀礼や儀礼食に調査が集中する傾向がみられた。庶民が「生きるために食べた」イワシやイカについて調査されることはなかった。

魚食が盛んな日本は世界最大の漁業国でもあったことを忘れていないだろうか。日本近海で暖流と寒流がぶつかることで栄養豊富な魚介類が豊富にとれ、多くの郷土食が日本各地に生まれた。ところが高度経済成長期の人々の生活の変化や海洋汚染などで海と人の関わりが急速に薄れていった。スーパーマーケットに置かれる魚介類もグローバル化の影響で一年を通じて変化に乏しくなり、旬が感じられなくなった。海外での健康食ブームで魚食が注目され、魚介類の消費量が増大し、養殖魚が増えて効率的で低価格で提供されるようになった。世界の水産資源は漁業技術の発達や乱獲などでもはや限界を超えている。産業資本にとって都合のよい販売方法が、流通や漁業、海の利用のあり方にまで影響を与え始め、魚食が遠く離れた海の環境悪化に直結するようになった。

海がかかえる課題にいち早く気づいたのは高度経済成長期の漁村の人たちであった。漁民は皆、海水汚染や沿岸域の埋め立て、魚の奇形や漁獲量の減少を容易に見聞きし、体験してきたことであった。海に浮かぶ島国に住む日本人は海洋汚染や、それによる漁獲高の減少、魚食文化の衰退は無関心のままであった。また、現在の気象変動による海水温の上昇やマイクロプラスチックゴミなどの海洋汚染などもあり、世界規模で取り組まなければならない。それでも魚食を好む日本人として美味しい魚をこれからも食べ、魚が群れているきれいな里海をながめていたい。そのために市民でもできる活動の一つとして生産性の高い干潟の保全や稚魚がむれる藻場の管理などがある。

現在の日本の伝統的な魚食文化は細々ながらも高度経済成長以後も地域で継承されてきたものである。たとえば、福井のヘシコは成分の科学分析で健康食と認められ、産業化してまちおこしに貢献しているし、イカナゴのくぎ煮は、養殖魚の餌であったものを漁師料理に学び加工食品にすることで資源保護に役立っている。また、発酵技術の活用で産業廃棄物として捨てていた水産加工品のゴミを魚醬にかえた例もある。このように伝統的な魚食文化を現代社会に蘇らせ、新たな価値を生み出す動きは始まったばかりである。

現在、日本「食」と「環境」は大転換期を迎えている。食と環境のシンポジウムは多いが、より具体的な魚食文化への討論をととして日本の里海の課題を明確にし、伝統的な生活文化の継承や環境の保全についてどのように実践すればよいのかを見つめなおす機会を作り出したいと考えた。2013年に「和食＝日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録された。これは、日本料理が世界的に高く評価されたことによるが、一方で家庭料理や地域食の崩壊をなんとか回避して継承しようとする側面もあった。

伝統的な里海の多様な価値を再評価し、アイデアを出しあい、身近な海里山の原点を見つめなおし、生きるための食や環境を考え、新たな実践につなげてゆくことが必要であり、議論を深めていきたいと考えている。

日 時 2020年10月3日（土） 9：00～12：30

司 会	未定
主 旨 説 明	印南敏秀（愛知大学）
パネリスト	鷲尾圭司（水産大学校） 上田勝彦（東京海洋大学） 野林厚志（国立民族学博物館） 越智信也（神奈川大学日本常民文化研究所）
コメンテーター	未定

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしてありますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第67回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田太郎（〇〇市立博物館）、山田花子（〇〇大学大学院生）、山田太郎（〇〇民俗学研究会）、山田花子（〇〇県）、山田太郎（NPO法人〇〇）、山田花子（自営業）、山田太郎（株式会社〇〇）、山田花子（会社員）、山田太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田花子（〇〇大学非常勤講師）など

<参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014年7月13日
第29期日本民俗学会理事会

●研究発表のオンデマンド配信について（動画作成マニュアル）

A 発表者の方の準備の流れ

- 1 発表内容のプレゼン動画の作成（15分以内）
- 2 プレゼン動画のYouTubeへのアップロード
- 3 アップロードしたプレゼン動画URLの実行委員会への送信

B 視聴と質疑応答

- ・大会サイトにコンテンツへのリンクが貼られるので、希望するものを視聴する。
- ・質問はYouTubeのコメント欄に書き込み、それに対して発表者が回答をする。
- ・視聴は10月11日（日）まで（質問〆切10月7日、回答〆切10月9日）。

※公開期間終了後、大会サイトからのリンクを削除します。その後、プレゼン動画をweb上に残しておくか削除するかは、発表者の判断に委ねます。

C 著作権・肖像権について

- ・動画コンテンツの著作権は、発表者に帰属します。
- ・当該動画コンテンツにより生じた問題は、発表者が一切の責任を負うこととします。
- ・他の著作物からの引用にあたっては、「発表内容と引用内容の主従関係が明確で引用部分が明瞭に区別されているか」「引用の必要性があるか」「出典元が明記されているか」「改変されていないか」について、もう一度ご確認ください。とくに他者が著作権を有する写真・映像・音楽を引用しなくてはならない場合、著作権法違反にならないようご注意ください。
- ・人物の写った写真を使用される場合、肖像権の侵害にならないようご注意ください。

A-1 発表内容のプレゼン動画の作成方法（PowerPoint）

（1）最初に発表用スライド（音声なし）を作る

普通にPowerPointで発表内容のスライドを作成し、ファイル名をつけて保存します。

（2）次にナレーション付きのスライドにする

そのファイルを開き、メニューバーから「スライドショー」→「スライドショーの記録」→「先頭から録音」の順にクリックします。録音用画面が表れるので、以下、スライドをめぐりながら、マイクに向かってナレーションを録音していきます。

<操作方法>

- ・左上の●をクリックすると録音が始まります。
- ・次のスライドに移動する場合はスライド右端の▶をクリックします。
- ・一時停止は左上の「記録の一時停止」ボタンを押します。
- ・「記録の停止」をクリックすると先頭のスライドに戻ります。

★スライドが最後になったら、そのまま▶をクリックすれば記録を終了します。ファイルメニューで「保存」を選び、PowerPoint プレゼンテーション形式 (.pptx) で作業がすべて保存されていることを確認します。

（3）スライドを動画に変換する

- ・「ファイル」→「エクスポート」→「ビデオの作成」の順にクリックします。
- ・「ファイル名」ボックスに、ビデオのファイル名を入力し、このファイルを含めるフォルダを参照してから「保存」をクリックします。その際、「ファイルの種類」ボックスで、「MPEG-4

ビデオ」を選びます。これでファイル名に「.mp4」の拡張子がついたプレゼン動画が作成できました。

※検索サイトで「パワポ 動画作成」で検索すると、たくさんの解説ページがヒットしますので、ご参照ください。

A-2 プレゼン動画のYouTubeへのアップロードの方法

★Googleアカウント（Gmailアドレス）が必要です。Gmailをお使いの方はそれで大丈夫です。お持ちでなければ、Gmailアドレスを取得してください（Googleのサイトで簡単に作れます）。

（１）今までにYouTubeにアップロードをしたことのない方は、YouTubeアカウントを作る必要があります。

- ・YouTubeにアクセスし、右上の「ログイン」をクリック。
- ・Gmailアドレスを入力して「次へ」をクリック。
- ・パスワードの入力を求めてくるので、適当なパスワード名を設定して「次へ」をクリック。
- ・YouTubeのトップ画面に切り替わるのでもう一度「ログイン」をクリック（右上にGoogleアカウントでログインしていることを示すアイコンが表示される）。
- ・アイコンをクリックし、その下に表示される「クリエイターツール」をクリック。
- ・「動画をアップロードするにはチャンネルを作成する必要があります」と表示されるので、「チャンネルを作成する」をクリック。
- ・アイコンをクリックすると「YouTubeチャンネル」が作成されたことがわかります。

（２）動画ファイルのアップロード

- ・「YouTubeチャンネル」にログインし、右上のビデオマークのアイコンをクリックします。
- ・「動画をアップロード」をクリックすると赤枠が表示されるので、アップロードしたいファイルをドラッグ&ドロップします。上のバーが「100%アップロード済み」になるまで待ちます。続いて表示バーが変わるので、「100%処理済み」になるまで待ちます。
- ・「処理が完了しました」と出たら、「完了」をクリック。この時、右の欄に公開の条件を選択するボタンが現れるので、「限定公開」になっていることを確認してください。

A-3 アップロードしたプレゼン動画URLの実行委員会への送信

- ・（２）の最後の画面の左の欄に「動画は次のURLで視聴できるようになります」と表示されています。この表示されたURLを年会実行委員会事務局にメールで送ってください。

【メール件名】発表動画（発表者氏名）

【送信先】年会実行委員会事務局（minzokugaku72@gmail.com）

【送付期限】8月31日（月）

※検索サイトで「YouTube アップロード」で検索すると、たくさんの解説ページがヒットしますので、ご参照ください。